

1. 評価結果概要表

評価確定日 平成20年3月21日

【評価実施概要】

事業所番号	4091600298
法人名	医療法人 八十八会 ツジ胃腸科病院
事業所名	グループホーム こすもすⅡ
所在地 (電話番号)	福岡県久留米市国分町2050-1 (電話) 0942-21-0836
評価機関名	社団法人 福岡県介護福祉士会
所在地	福岡市博多区博多駅前中央街7-1シック博多駅前ビル5F
訪問調査日	平成20年2月8日

【情報提供票より】(平成19年12月10日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 19年 4月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤 9人、非常勤 8人、常勤換算	8.8人

(2) 建物概要

建物形態	併設/ 単独	新築 /改築
建物構造	鉄骨造り	
	2 階建ての	1 階 ~ 2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,210 円	その他の経費(月額)	45,090 円
敷金	有(円) 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) 無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 986 円		

(4) 利用者の概要(平成19年12月10日現在)

利用者人数	18 名	男性 6 名	女性 12 名
要介護1	2 名	要介護2	7 名
要介護3	5 名	要介護4	4 名
要介護5	0 名	要支援2	0 名
年齢	平均 85 歳	最低 77 歳	最高 97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	新古賀病院・聖ルチア・清川歯科・サン歯科・辻胃腸科医院
---------	-----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

久留米市の成田山の大きな観音像のそばにあり、中川が流れる静かな住宅地に位置している。ホームの中は木のぬくもりが伝わり、窓は広く暖かさを感じる建物である。施設長はじめ、職員の中に病院勤務経験者や介護専門のスタッフが揃っており、安心して利用出来る体制が整えられている。利用者の人権を尊重し、家庭的な環境で地域との交流に努め、運営者及び職員が利用者一人ひとりを大切にされた介護が実践されているホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	初回評価のためなし
重点項目 ②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員全員が外部評価の意義を理解し、運営者・管理者・職員は日々の職員会議時などにおいて自己評価を行ない、評価の意義を介護に反映出来るよう体制を整えている。
重点項目 ③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	2ヶ月に1回各分野からの参加を呼びかけ実施している。利用者・家族・地域代表者・行政関係者の参加を得て事業所の現状報告を行ない内容や質、要望など利用者の立場での意見を受け、地域密着型サービスとしての質の確保を図る為会議を開き地域との交流につとめている。
重点項目 ④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8, 9)
	施設の発行の「こすもすⅡ」で日常の行事や状況を報告し、家族の来訪時に意見や要望を聞くように努めている。苦情箱を置くと共に苦情処理委員会を設け、意見要望を謙虚に受けとめ介護に反映するよう努めている。
重点項目 ⑤	日常生活における地域との連帯(関連項目:外部3)
	地域での夏祭りなど行事への参加、施設で催して近隣の方々、ボランティアの参加を得て、交流、連携に努めている。

2. 調査結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者の人格を尊重し、「地域に密着したサービス」を念頭に職員全員で検討してつくられた。自分らしい自立した生活支援の大切さを、分かり易い言葉で事業所独自の理念を作っている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	玄関とホールの目につきやすい所に大きな文字で掲示されている。毎日の申し送り時には、利用者と共に理念を唱和し、意識づけがなされおり日々取り組みに努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	事業所前の道路は、地域の方々の散歩道になっており、出会いを大切に挨拶が交わされている。祭りなどの行事を催す時には近隣の方々やボランティアの参加を得るなど交流を心がけている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員が外部評価を理解し、自己評価に取り組み、気付きがあれば改善して、サービスの質の向上に向けて真摯に前向きに捉えている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者及び家族、地域の代表者、市職員の出席を得て、2ヶ月に1回実施している。出席出来ない家族については委任状をとるなどし、現状報告や意見交換を行わないサービス向上に反映させている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市には運営推進会議の記録を提出し、担当者とは密に連絡をとり課題発生時の解決に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現在、権利擁護に関する制度の利用対象者はいない。職員は内部研修等で学習しているが、全職員への理解には至っていない。	○	行政からパンフレットや資料を取り寄せて、利用についての相談時には説明できるように、全職員が理解を深め取り組むことが望まれる。
4. 理念を実践するための体制					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の面会時に利用者の日々の暮らしぶりや健康状態、及び金銭出納報告をしている。また、定期的に発行している「こすもす便り」で職員の異動やホームのお知らせ、行事時の写真を載せて送っている。		
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情処理委員会を設置し、意見箱を置いている。また、家族面会時にも意見を聴いて、内容を謙虚に受け止めサービスに反映するよう努めている。		
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者が安心して日々過ごせることを第一に考え、信頼関係を築く為に職員を固定化し、馴染みの職員によるサービスに努めている。		
5. 人材の育成と支援					
11	19	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員採用時にあたっては性別、年齢等の理由での排除はされていない。男女の職員が主体性を持ち働いている。休暇の体制も整えられ社会参加や自己実現できるように配慮されている。		
12	20	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	法人での研修委員会への参加や 入居者に対する言動、守秘義務についての資料を回覧し、ミーティングやアンケートで全職員への周知を図っている。		
13	21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修に参加した場合は、研修参加で得た知識を全職員に伝達研修したり、資料を配布して、周知を図りサービスの向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
14	22	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会などの機会に他施設との交流はあるが一部の職員に限られている。	○	同種の他事業所との交流の機会をより多く持ち、相互訪問などを行ないサービスの質の向上への取り組みが望まれる。
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係作りと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者本人が納得出来るよう家族と共に、入居前の見学や、説明を十分に行っている。また、他の利用者や職員となじみやすい環境づくりに配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者と一緒にすごすなかで一人ひとりの気持ちを受けとめ理解しようと努めている。又、利用者の得意分野で力を発揮できるよう場面作りや声かけを行ない感謝をしたりお互いに支えあう関係作りを努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用開始にあたり身体状況、医療情報、家族状況、住環境、趣味・趣好、これまでの経過等の情報が聴取、記録されている。センター方式の一部を利用して利用者の状況把握を行っている。日々のケアの中では、傾聴することで利用者の思いを汲み取っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人・家族の意向を確認し、担当職員・介護支援専門員で介護計画原案を作成したのち関わっている全職員の意見を取り入れて作成している。日々のケアに於いても、毎日介護計画をチェックし経過記録に結果を記入している。		
19	39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月毎にモニタリング・評価を行い介護計画の見直しを行っている。状態変化に合わせて随時、計画変更を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	常勤の看護婦を配置し、安心して暮らせるよう支援している。利用者の妻が入院中であり、定期的に通う面会の支援を行っている。また、家族面会時には、一緒に食事やおやつを食べていただいている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望するかかりつけ医がいる。受診の際は、基本的にはご家族にお願いしているが、状況に応じて職員が付き添い受診結果を家族に報告している。		
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現在までに対象者はいない。本人や家族の意向を確認し、医療との連携を図りながらその都度方針を共有する。勉強会など行い体制は出来ている。		
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	失禁などの場合は周りの方に気づかれないようにそつと介助している。職員が利用者の居室に入る際には、本人の承諾を得るなどプライバシーの保護を職員に徹底させている。職員の雇用契約時に個人情報保護に関する誓約書をとっている。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れはあるが、一人ひとりの希望やペースを把握し、その人のペースで支援している。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ホームの菜園で取れた野菜や、近隣の方や家族の方からいただいた野菜を使って、利用者は職員と一緒に調理している。一人ひとりのペースでゆっくりと食事が出来るよう、職員も同席し利用者と同じ食事を楽しんでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時間、入浴回数等本人の希望にあわせて支援している。また、菖蒲湯、ゆず湯などで季節感を出している。入浴拒否などがある場合は、時間を置いて声掛けしたり他の職員が声掛けしたりと工夫している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の生活歴と趣味・嗜好をケアの一環として聞き取り、畑作り、ちぎり絵、大正琴など一人ひとりに応じた楽しみを支援している。食堂で勤務されていた方があり手際よくおやつを作られていた。		
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日は近くのお宮などへ散歩に行ったり、いきつけの店で買い物をしたりと外出支援を行っている。定期的な園外レク活動や外食なども計画され、ホームに閉じこもらないよう支援されている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間のみ鍵をかけている。玄関横に事務所があり出入りする利用者を確認できるようになっている。一人で出かけられる時は、一緒について行き本人の気の済むところまで付き添っている。		
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災マニュアルがあり、避難経路、避難場所等の把握が出来ている。年2回の避難訓練を行っている。消防署より、夜勤者は非常口の鍵を常時首から提げるように指導をうけ実行している。災害時に備えて各ユニットごとに、水、非常食の用意がある。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人の栄養士によりカロリー計算されたバランスの取れた食事が提供されている。食事摂取量はチェックシートにて把握できる。水分量は必要な方のみ記録している。野菜中心のメニューを取り入れて便秘症の解消になっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	手作りの小物で飾られた和風の玄関は、訪れる人の心を和ませてくれる。食堂兼居間には、ゆったりと座れるソファがあり、テレビを見たりカラオケを楽しむことが出来る。畳のコーナーには、掛け軸が飾られ落ち着いた空間となっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
33	85	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>使い慣れた家具や寝具が持ち込まれ、家族の写真、趣味の小物などが飾られ利用者のこだわりの居室になっている。</p>		